整理番号　16-46

平成２８年度　プロジェクト研究費研究実績報告書

平成 29 年 5 月 8 日
代表者　吉川　知夫

研究課題名	Ｓスケールを活用した障害のある子供の学習評価と授業改善
研究期間	平成 28 年 4 月 1 日 ～ 平成 29 年 3 月 31 日
共同研究者	

１．今年度の研究概要

特別支援学校（肢体不自由）に在籍する児童生徒は、重度・重複障害児が多く、発達的観点からのみの実態把握では、授業につながりにくいという課題があげられている。また、生活単元学習や日常生活の指導等、各教科等を合わせた指導において、教科の観点からの学習評価が不十分であることも指摘されている。本研究の目的は、特別支援学校に在籍する肢体不自由及び知的障害のある重複障害児を対象として、教科の視点で児童生徒の実態把握及び目標設定を行うことを提案する「Sスケール（学習到達度チェックリスト）」を活用し、特別支援学校における授業改善の方法を検討することである。

研究協力校である埼玉県内の特別支援学校（肢体不自由）において、「S スケール（学習到達度チェックリスト）の概要とその活用」について、類型Ⅲ（知的代替）の教育課程を担当する教員を対象とした研修会を５月及び７月に実施した。そのうえで、類型Ⅲに在籍する小学部・中学部・高等部の児童生徒全員に対して学習到達度チェックリストを実施した。学習グループごとに、学習到達度チェックリストによる実態把握から、指導目標を見直す作業を行い、具体的な指導内容を検討した。１１月と１月に、学習指導案を作成して研究授業及び研究協議会を実施し、学習到達度チェックリストの有効性を検証した。

２．研究の成果

児童生徒の実態（発達）を踏まえた適切な目標設定が十分にできていないことから、Ｓスケール（学習到達度チェックリスト）を活用して実態把握を行い、適切な目標設定と指導につながる授業実践を目指して研究に取り組んだ。研究協力校における今年度の実践から、①学習到達度チェックリストを活用することで、客観的に実態把握をすることができた。②発達段階や具体的な行動項目が示されているため、目標設定に有効であった。③国語の授業では、４観点（聞く，話す，読む，書く）の指導内容を意識することができた等の成果があげられた。

授業研究を通して、学習到達度チェックリストの活用が、児童生徒の実態把握及び目標設定に有効であることが確認された。今後の課題として、授業改善のプロセスのシステム化があげられた。

３．研究成果の公表実績・予定（年月日、方法）

・研究協力校における研究のまとめ発行（平成２９年３月）
　類型Ⅲの研究
　１　研究テーマ設定の理由
　２　研究仮説
　３　結果
　４　考察（来年度に向けて）
　５　類型Ⅲとしてのまとめ

・第５５回日本特殊教育学会（平成２９年９月：愛知大会）において、関連する内容を含んだ自主シンポジウム「障害のある子どもの学習評価と授業改善（７）」を実施し、研究内容を踏まえて指定討論を行う予定である。

平成 29 年 10 月 19 日

平成 28 年度(2016 年) 研究概要

研究所・部門	児童教育学科
研究課題名	Ｓスケールを活用した障害のある子供の学習評価と授業改善
研究代表者	吉川知夫
研究期間	平成 28 年 4 月 1 日 ～ 平成 29 年 3 月 31 日
共同研究者	

1.研究成果取組状況

(1)国内外の学会発表

状況	発表者，発表課題，学会誌名，発表年月日，発表場所	招待講演
発表済		
発表予定		

(2)雑誌論文(学内紀要含む)

状況	発表者，発表課題，学会誌名，発表年月日，発表場所	査読有無
投稿済		
投稿中 投稿予定		

(3)図書等の出版

状況	発表者，発表課題，学会誌名，発表年月日，発表場所
出版済	
出版予定	

(4)シンポジウム・講演会等の開催

状況	主催者名・協賛社名等，講演（発表タイトル），実施年月日，実施場所
開催済	日本特殊教育学会第55回大会　自主シンポジウム 障害のある子どもの学習評価と授業改善 ―障害の重い子どもにとっての学びの連続性をどう考えるか― 2017 年 9 月 18 日（月）：名古屋国際会議場
開催予定	

(5)本研究に関連して本学経費以外に支援を得た補助金など

年度	機関・財団名，事業名，課題名